

産業界等と連携した学びの実践事例

学校名	岡山県立 倉敷工業 高等学校
実践場面	地域活性化のための倉敷のれんプロジェクト
実践日時（時期）	令和2年から継続中
対象生徒（学年）	テキスタイル工学科3年生 課題研究（プロジェクト参加者）
連携の形態	<input type="checkbox"/> 包括連携協定（商工会議所・商工会） <input checked="" type="checkbox"/> その他（倉敷の商店街からの依頼による）
学びの分類	<input type="checkbox"/> 講演会講師・説明会 <input type="checkbox"/> 技術指導 <input type="checkbox"/> 企業訪問・インターンシップ <input type="checkbox"/> 商品開発・共同研究 <input type="checkbox"/> 最新技術・設備の見学 <input checked="" type="checkbox"/> その他
実践の内容	
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスタイル工学科では、染め・織り・デニムの縫製や加工・デザインを学び、3年次には課題研究としての作品を制作する。 ・3年間で学んだ技術を生かした作品を制作するにあたり、地元の繊維産業を担う高校生として倉敷の商店街のイメージアップに貢献できるのれんを企画している。 ・継続的な取組を地域に発信することで、実践的な学習の場となっている。 <p>【実践内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年から継続的に行っているのれんの制作は、地域（倉敷の商店街）の依頼により始まった取組で今年度4年目になる。 ・授業では、一般的なのれんのサイズや仕組みなどを調査し、生徒には対象となる店舗の企画書を作成し出向いた。事前指導として、生徒には提案の内容と今後の制作スケジュールの確認だけでなく、社会人のマナーとして身だしなみについての指導も行った。 ・生徒は放課後等を利用して店舗に出向き、依頼の内容や市場調査を元に創作したアイデアの中からデザインを決定した。 ・試作として型紙でスケールの確認をした後、シルクスクリーン印刷で店舗のロゴとマークを刷る準備を行った。染料は堅牢度の高いスレン染料を使用し、生地は発色がよく不規則なストライプのシャンタンを使用し本制作に入った。助剤（薬品）や染料を取り扱うので薬品の管理と火気の取り扱いに注意をしながら、必ず教員が立ち会い安全な作業環境を整え、掃除や整理整頓にも心がけた。 ・染色した生地はのれんのサイズに切り、シルクスクリーン印刷でロゴとマークを刷り縫製して仕上げた。 ・完成したのれんは、課題研究発表会（校内）・テキスタイル工学科展・高校デザイン展での発表後に店舗へ寄贈した。 	
実践による効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ知識や技術を生かし、繊維の町倉敷に貢献できる作品がのれんとして活用されることで、より実践的な学びの場となった。 ・生徒の学習への興味や関心の向上にもなっているので、テキスタイル工学科として今後も継続した取組をしていきたい。 	



※実践の様子が分かる写真等を適宜入れてください。（肖像権の確認等（特に企業側）は各校で行った上で提出してください。）